

生徒 1000 人に、先生が 1 人

そんな学校を想像できますか？

南スーダン共和国と聞いて、即座にそれがどこにあるのかイメージできる人は少ないだろう。

スーダンはアフリカ大陸のエジプトの南に広がる大きな国だ。スーダンは 1956 年イギリスから独立したが、その前から 40 年近くも内戦状態にあった。憎しみが憎しみを呼ぶ終わりなき対立と殺戮（さつりく）、村の焼き討ちと強奪、そして女性への暴行…。40 年といえば、2 世代が変わる長さだ。多くの国民が、生まれてから、「平和」というものを知らないのだ！ そのことを想像できるかい？

南部スーダンでは、小学校に入学できても、その卒業率はなんと 1.9%!! 40 人入学して 1 人卒業するかしないか。教師の数はなんと子供千人に対して一人だった（2009 年）。多くの子供たちも幼くして戦士となって戦わざるを得ないのだ。

そして、その内戦が続く間、55 万人が難民となって国外へ流出し、610 万人が国内の難民キャンプで避難生活を送っていた。スーダンからの難民の子供たちが話すことは辛く怖い体験ばかりで、いつも武器による攻撃にさらされていたこと、夜に何者かがテントをたたいていると震え上がりながらおびえていたこと等だそう。難民キャンプで初めて「学習」という人間の行為に触れた女の子は「スーダンで暮らしていた時は、そもそも『学校』というものすら知りませんでした。『教育』が何のために必要なのかも全く考えたことがありませんでした。」と語ったという。それでも、人間は希望を失わない。難民キャンプでの粗末な青空学校で、子供たちはとても熱心に学び、先生や医者、歌手などになりたいと夢を持って「平和」な未来を待ち望んでいた。

そのスーダンが南北の対立を集結させ、昨年 1 月の住民投票を経て、2011 年 7 月 9 日に「南スーダン共和国」が独立したのだ。問題は山積みだが、ようやく訪れる「平和」。子供たちが夢見てきた「平和」。この国はようやく長いトンネルから抜け出せるという希望に溢れた。国連も 200 万人を超える人々の帰還と国の再建へ向けて支援をスタートさせた。

ところが…

今年の 1 月 9 日付けで、国連難民高等弁務官は全世界に向けて、次のような緊急要請を行なった。

We appeal for “massive” humanitarian support for South Sudan! (我々は、南スーダンに向けた「大規模な」人道的支援を求める)

何が起きているのか？



和平協定を結んで南部の独立を認め、二つの国家として歩み始めたはずのスーダンだったが、独立からわずか数ヶ月で、「平和」は夢と消え、国境地帯が一触即発の状態となっているのだそうだ。ようやく故郷に戻った南スーダンの人々が周辺諸国へ難民となって逃れている。

そのスーダンで地道に復興を支援している J I C A（国際協力機構）スーダン事務所長の宍戸健一さんが、2月2日（木）に我々北越高校1年生にメッセージをくださることになっている。

君たちは何を感じ、何を考え、何を得るのか。

2月2日。君の中の何かが変わるはずだ。

◎セカンドホーム訪問

男子バスケットボール部

①部員数 1年12名 2年13名

②目標 Aリーグ昇格、春県総体ベスト16

③活動内容およびPR

男バスではAリーグ昇格、各大会上位入賞を目指して、日々練習しています。また、一人一人が目標に向かって一生懸命になっている、みんな仲の良いとてもいい部です！

④がんばっている人

がんばっている人は笠原祐さんです。先輩たちに混じって練習することも多いですが、その先輩たちに負けない一生懸命さでプレーしています。練習が終わっても自主練してる姿から、とても努力していることが感じられます。

女子バスケットボール部

①部員数 1年11名 2年9名

②目標 インターハイ出場！！

③活動内容およびPR

私達は、学館と中央を倒してインターハイに行くために日々の練習やトレーニングを頑張っています。また、学年関係なく仲が良いです。1年生は、まだできないことがたくさんあるので先輩方を見習って頑張ります。

④がんばっている人

石川薫子さん（1年1組）です。石川薫子さんは、北越でバスケットをするために遠い佐渡から来ました。私生活も大変だと思いますが頑張っています。部活では、みんなをプレーなどでひっぱってくれる存在です。これからも一緒に頑張っていきたいです。

☆ 今後の予定

1月28日（土）土曜講座（新体制初日） 欠席・遅刻のないように（退塾規定できました）

2月2日（木）国際協力講演会（J I C Aスーダン事務所長 宍戸健一さん）

スポーツコース スキー合宿前 健康相談